

其二十二 蠅と蜜壺

臺所の隅に蜜壺が、ひつくり返つて居た所へ、澤山の蠅がいー香を嗅ぎつけてやつて来て、蜜の上に留つて腹一胚食つて居ました。さて歸らうとした所が、皆脚が蜜にクツついて仕舞つて飛ぶことも出来なければ身動きも出来ない、もー皆な死なうとする際になつて一度に叫び出しました。「まー何んと我々は馬鹿な動物だつたじやないか、少し許の快樂の爲に今に死なねばならなくなつたとは』

其二十三 牝獅子

或時野の獸どもが倚つてたかつて議論をしまして一体一度に一番數多く子を産むことの出来る獸は誰だらうといふ議論だか中々決らないので、手つ取り早く牝獅子の所に行つて裁判して貰うのが第一だといふので皆で揃つて牝獅子の前に出かけた

した。だん／＼話して居る中に、「夫はさて置き、あなたは一度に何匹か生みになりますか」と聞くと、牝獅子はニッコリ笑つて「何だつて！分らないじやないか、妾はたつた一人さ、けども其一人といふのはね、まつたく立派な獅子の子だよ」物の貴さは、數にわらずして其物の價值にある

●簡易英語

Book. * Pen. * * Fable. 寓言
Bring me that book and pen.

あの本とペンを持つておいで
What book is that ?

それは何の本ですか
It is Aesop's fable.

伊蘇普物語の本です

Whose is that?

誰のですか

It is mine.

私のです

ころんぶすの卵

牧羊譯

亞米利加といふ國は、皆さん御存知の通り、歐羅巴の各國から比べると、極新しい國で、今から凡そ四百年程前、ころんぶすの發見した國であります。其のころんぶすが、此國を發見するに付いて、どの位辛苦艱難を嘗めたかといふ事も、皆さんは歴史だの讀本だので、お讀みになつたらうし、又兄さんや姉さんから、お聞きになりましたでしょう。夫に付いて、こゝにころんぶすの卵と

いふ面白いお話があるのを御話致しましよ。さて、彼のころんぶすが、何でも 歐羅巴の反對の側に人の知らない大陸のあることを信じて當時の學者だの貴族だの其他國民残らずが反對したり、嘲弄したり、冷かしたりしたのも願みないで、船出をして、海の上でも種々な辛苦艱難に出遭つたが、とうとう一切の困難に打ち勝つて目出度、本意を達して歸國した時に、西班牙國の大僧正で、めんどつわと申す人が、ころんぶすの爲に、お祝をしやうといふので、其國の貴族だの、名高い學者だのを残らず招待して、大宴會を開きましたやがて、皆集まつて、宴會が始まつた時分に、僧正は眞中に立つて、今度ころんぶすがなした所の大發見といふものは、これまで、一人でやつた事業の中で、一番大きな功績である、此功績といふ